

第2回大阪市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会（中学校） 会議録

1 日 時 平成30年7月10日（火）10：00～12：20

2 会 場 大阪市教育センター 第5研修室

3 出席者

（委 員）

岡崎委員、花田委員、外村委員、松山委員、仁平委員、新井委員、藤田委員、
野嶋委員、大澤委員、赤石委員、竹内委員、石川委員、松井委員、安藤委員、原口委員

（事務局）

水口部長、飯田学校力支援担当部長、盛岡中学校教育担当課長、弘本初等教育担当課長、
山咲インクルーシブ教育推進担当課長、富山教育活動支援担当首席指導主事、
大西教育政策課首席指導主事、関谷総括指導主事、小野寺総括指導主事、田野原指導主事、
河原指導主事、山中指導主事、藤本指導主事、甲斐指導主事、松本指導主事

4 議 題

学校調査会、専門調査会からの報告による答申案の検討

5 議事録

（事務局）

おはようございます。開会に先立ってご連絡いたします。

まもなく選定委員会が始まります。

本日、添田委員におかれましてはご公務のため、欠席との連絡が入っておりますことをご了承いただきますようお願いいたします。それでは、よろしくお願いいたします。

（委員長）

委員の皆様方、改めまして、おはようございます。

ただいまより、第2回選定委員会を始めさせていただきます。委員の皆様方におかれましては、ご多用の中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

5月31日の第1回選定委員会以降、専門調査会、学校調査会で調査研究を行い、調査員による調査は、先週に全て終了いたしました。お手元の冊子にはその調査結果が記載されております。本日は各調査委員会から調査の結果を報告していただき、その後、答申資料の内容について検討していきたいと思っております。長時間の会議になりますが、慎重なご審議の程よろしくお願いいたします。

では、始めに事務局より、選定資料ならびに調査研究の経過などについて説明していただきます。よろしくお願いいたします。

（事務局）

失礼いたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、配付いたしました資料について、確認させていただきます。今回の配付資料は、左上に黒のクリップでとめているものでございます。前回の資料とお間違えのないようにしてください。

まず、配付物一覧が一番上にございます。クリップをはずしていただいて2枚目から、第2回 この選定委員会の次第、座席表、見本本発行者別一覧、これにつきましては、略称等発行者正式名称がありますので、ご覧下さい。続きまして、答申資料の様式。教科書展示会「ご来場の皆様へのアンケート」集計もはさんでおります。続きまして、第3回大阪市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会の開催について、選定委員記入用協議及び検討についてのご意見でございます。これについて、後ほど説明いたします。

続きまして、ホッチキス綴じの資料として、前回もお渡ししております「調査の観点」でございます。

続きまして、学校調査会調査結果（3冊）でございます。まずは、はじめが集約となっております、129校を集約したものがこちらです。

続きまして、「咲くやこの花中学校の学校調査会調査結果」でございます。

続きまして、「水都国際中学校の学校調査会調査結果」でございます。

続きまして、「専門調査会調査結果」でございます。

続きまして、「大阪府教育委員会作成の平成31年度使用教科用図書選定資料」でございます。

最後に、水都国際中学校関係資料でございます。

不足等はございませんでしょうか。

なお、お手元には、見本本8者分を置いてあります。随時ご覧ください。

では、「特別の教科 道徳」について説明させていただきます。

ホッチキス綴じの配付資料「調査の観点」をご覧ください。

前回の第1回選定委員会では、「調査の観点」などについてご審議いただきました。その際、いただいたご意見をもとに修正し、委員長に確認をいただき、確定いたしております。

その後、各調査会では、「調査の観点」に則って、校長先生や教員の調査員の皆様に調査・研究を進めていただきました。

各調査の概要をご説明申し上げます。

学校調査会は、市立130校の全中学校で、各校5名程度の校長や教員による調査研究が行われました。各校からの報告を集約したものが、お手元の「学校調査会調査結果」でございます。「学校調査会調査結果」は「129校を集約したもの」と「咲くやこの花中学校」と「水都国際中学校」の3種類となっております。「学校調査会調査結果（集約）」では、各項目に対する調査結果について、多くの学校の意見の中から代表的なものを記入しています。この学校調査会の調査結果は、すでに専門調査会にも報告しています。

専門調査会は、今回は「特別の教科 道徳」のみでした。代表の校長先生と教員4名の計5名がメンバーとなり、約1か月間、専門的な立場から調査・研究が行われました。事務局や教育センターの指導主事もあり、学校調査会の調査結果も加味して、発行者ごとに調査の観点に照らしたうえで、特筆すべきことならについてまとめたものが、お手元の「専門調査会調査結果」でございます。

本日は、この専門調査会の報告をもとに、内容を検討し、加除訂正を加え、答申資料を作成いただきたいと考えています。

答申の様式についてですが、5月31日の第1回選定委員会でお示しさせていただいております。専門

調査会調査結果は、その答申資料の様式を踏まえたものです。

表の一番上に発行者とありますのは、教科書を発行している会社でございます。

次に、「総評」の欄がございます。これは、昨年度に、教育委員会会議で教育委員から、よりわかりやすい資料とするようにとのご意見を受けたもので、「調査の観点」に照らして特に顕著な特徴を取り上げながら、発行者ごとの特色がわかるように記述しています。

「総評」の下には、「調査の観点」に記載された選定基準の項目に基づき、発行者ごとに、「特に優れている点」および「特に工夫・配慮を要する点」について箇条書きしております。なお、箇条書きの末尾には、「調査の観点」の特にとどの観点に関わる記述かが分かるよう、観点番号を○囲み数字で書き出しています。また、ページ番号は、その根拠となる内容の掲載ページを示しております。

なお、答申については、昨年度の教育委員会会議で教育委員から次のような意見をいただきました。

具体的には、「答申をしっかりと参照して採択に臨みたいと考えている。できるだけ分かりやすい答申であって欲しい。」「学校現場の先生たちの専門的な見地で、特に我々が気付かないような、現場で教えるにあたって教えやすいとかそういう視点を入れていただきたい」「遠慮なく忌憚のない意見をわかりやすく書いていただきたい」「優れている点の記述が多い、少ない、などの印象で判断してしまわないような工夫を是非お願いしたい」といったものです。今年度においても、これらの観点を踏襲する必要があると考えております。

次に市内 31 か所の教科書センターで開催中の教科書展示会でお寄せいただいた学校協議会委員、保護者、市民からのアンケートについて説明させていただきます。7月4日現在のアンケート回収総数は 1092 通となっております。集約結果につきましては、資料のとおり簡単にまとめさせていただきました。集まったアンケート用紙そのものは、ファイルに閉じて、本会場内の三か所に置いておりますので、ご覧ください。

次に本日の予定について、ご連絡いたします。

本日は、各調査委員会がおこなった調査の結果について報告を受け、それをもとに選定委員会として審議いただきます。「特別の教科 道徳」の採択については、学校調査会の結果、専門調査会の結果、咲くやこの花中学校調査会の結果、水都国際中学校調査会の結果の順に担当指導主事と幹事校長から報告いただきますので、ご審議よろしく願いいたします。水都国際中学校の「特別の教科 道徳」以外の全教科の採択については、水都国際中学校調査会の結果を報告いただきますので、ご審議よろしく願いいたします。

なお、ご発言できない場合もあるかと思えます。ご意見を記入いただけるよう用紙も準備させていただきましたので、ご活用いただきたいと思います。

本日ご審議いただき、さらに確認が必要な事柄につきましては、事務局で専門調査会に確認するなどして報告いたします。

次の第3回の選定委員会は、本日審議が不十分だった点について確認し、答申資料について審議決定する予定でございます。

私からのご説明は以上でございます。本日はよろしくお願いいたします。

(委員長)

ありがとうございました。

初めに、学校調査会の報告をお願いいたします。

(事務局)

よろしくお願いいたします。

まず、私からは、学校調査会の調査結果について報告いたします。

学校調査会の調査員は、各校の実情に合わせて構成されています。そのため、調査結果には、道德教育の専門的な見地よりも、自分の学校を具体的に想定した視点が反映されたものとなっています。

それでは、資料「学校調査会調査結果」(集約)をご覧ください。この冊子は、「咲くやこの花中学校」と「水都国際中学校」を除く、129校の学校調査会報告を集約したものでございます。

まず、東書です。

「特に優れている点」として多くの学校が挙げていた観点は、「3 学習指導要領の基づく観点」の②です。「いじめ問題を重点的に取り上げ、様々な教材を組み合わせながら学習でき、生徒が深く考えられる工夫がある。」といった所見が多く見られました。また、「5 構成・配列に関する観点」の①について、「読み物資料の内容について、発達段階を考慮して、系統的に配列されている。」といった所見や、「6 資料その他に関する観点」の②について、「挿絵の絵柄が親しみやすく、図表なども生徒が興味を持つように工夫されている」といった所見も多く見られました。

一方で、「特に工夫・配慮を要する点」として「4 外的要素に関する観点」の①について、「教科書のサイズが他の教科書よりも大きく、使いにくい可能性がある。」といった所見や、「5 構成・配列に関する観点」の①について、「教材に内容が長く、1 時間の中で流れをつかみ、登場人物の心の動きを考えるには難しい。」といった所見が見られました。

次に、学図です。

「特に優れている点」として多くの学校が挙げていた観点は、「3 学習指導要領に基づく観点」の⑥です。『主として集団や社会とのかかわりに関すること』の育成について様々な教材を用いている」といった所見が多く見られました。また、同じく「3 学習指導要領に基づく観点」の⑧について、『心の扉』という学習ページが設定されており、内容項目ごとに考えを深め、主体的に学習に取り組めるように工夫されている。」といった所見も多く見られました。「4 外的要素に関する観点」の①については、「文字の大きさ・フォント・行間などが適切で、印刷が鮮明である。」といった所見も多く見られました。

一方で、「特に工夫・配慮を要する点」として、「4 外的要素に関する観点」の①について、「教科書の幅が広く、生徒の持ち運びが不便である。」や、「5 構成・配列に関する観点」の中で、「発達段階を考え、情報量が多い」といった所見を書いた学校もありました。

次に、教出です。

「特に優れている点」として多くの学校が挙げていた観点は、「1 大阪市教育行政基本条例・大阪市教

育振興基本計画に基づく観点」の⑧です。「大阪の伝統文化について学習できる内容が示されている」といった所見が多く見られました。同じ観点の⑩については、『生命を尊重する』ことを多面的・多角的に考え、議論することができる教材を取り上げている。」といった所見が多く見られました。また、「2 教育基本法に基づく観点」の②について、「個人の価値を尊重し、その能力を伸ばすことについて、偉人の生き方を示し、自身の生き方の変容を促している。」といった所見も見られました。

一方で、「特に工夫・配慮を要する点」として「3 学習指導要領に基づく観点」の③について、『学びの道しるべ』が道徳的価値観を誘導し、考え議論する道徳に対して課題がある。」といった所見も見られました。また、「4 外的要素に関する観点」の②について、「挿絵が古い感じで、生徒が興味を持ちにくい」といった所見も見られました。

次に、光村です。

「特に優れている点」として多くの学校が挙げていた観点は、「1 大阪市教育行政基本条例・大阪市教育振興基本計画に基づく観点」の③です。「学びのテーマが各題材の後ろに設定されており、自己の判断で道を切り開くことができる能力の育成に配慮されている」といった所見が多く見られました。また、「3 学習指導要領に基づく観点」の②について、「いじめの防止や安全の確保等についてわかりやすい読み物で問題提起を行い、漫画で可視化し内容へ入るよう配慮されている。」といった所見や、「6 資料その他に関する観点」の②について、「挿絵の画風が題材ごとに変化に富んでおり生徒の学習意欲を引き出す工夫がされている。」といった所見も見られました。

一方で、「特に工夫・配慮を要する点」として、「4 外的要素に関する観点」の①について、「フォントの影響があるのか文字が小さく見え、読みづらい」といった所見が見られました。また、「5 構成・配列に関する観点」の①について「文学作品が多く、読み取りに時間がとられ、深く考えたり議論したりすることができないおそれがある」といった所見も見られました。

次に、日文です。

「特に優れている点」として多くの学校が挙げていた観点は、「3 学習指導要領に基づく観点」の②です。「いじめ防止や安全の確保について深く学べる教材が豊富にあり、いじめを深く、多角的に考えられるよう工夫されている。」といった所見が多く見られました。また、「1 大阪市教育行政基本条例・大阪市教育振興基本計画に基づく観点」の⑩においても、『いじめ』『情報モラル』『安全』など現代的な課題を各所に題材として取り上げられており、生徒が主体的に学べるよう、身近な教材を選び編集されている。」といった所見が多く見られました。「6 資料その他に関する観点」の①では、「(別冊)『道徳ノート』について、考えを記入し、保存しておけるのがよい。3年間活用すれば、振り返って事故の成長が感じられると考える。」といった所見も多く見られました。

一方で、「特に配慮・工夫を要する点」として、「1 大阪市教育行政基本条例・大阪市教育振興基本計画に基づく観点」の③などにおいて、「内容項目を満たしているものの、生徒自ら考えを深めていくことに課題がある。」といった所見が見られました。また、「6 別冊『道徳ノート』の扱いが難しそうである。」といった所見も見られました。

次に、学研です。

「特に優れている点」として多くの学校が挙げていた観点は、「3 学習指導要領に基づく観点」の⑥で

す。「家族の思いやり、勤労の尊さ、人類に対する貢献などを学ぶ配慮がされている。」といった所見が多く見られました。また、「1 大阪市教育行政基本条例・大阪市教育振興基本計画に基づく観点」の⑩について、「命のありがたさについて、生まれてきたことが当たり前ではなく、奇跡の積み重ねであり、一人ひとりがかけがえのない自分であることを自覚できる内容である。」といった所見が見られました。

「2 教育基本法に基づく観点」の④については、「世界が抱える環境問題について、環境保全に寄与する態度が養うことができるよう配慮されている」といった所見が多く見られました。

一方で、「特に工夫・配慮を要する点」として、「4 外的要素に関する観点」の①について、「版が他者に比べて大きい。生徒のカバンの大きさの関係で課題である。」といった所見が多く見られました。また、「3 学習指導要領に基づく観点」の⑧について、「読み物教材と『クローズアップ』の関連があまりなく、資料について考えさせる内容がほしい」といった所見も見られました。

次に、廣あかつきです。

「特に優れている点」として多くの学校が挙げていた観点は、「3 学習指導要領に基づく観点」の⑧です。「別冊の道徳ノートによって、生徒自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、生徒自らが考え、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。」といった所見が多く見られました。

道徳ノートについては、「6 資料その他に関する観点」の②について、「道徳ノートの内容が濃く、振り返りの時間をかけ、学習の機会を増やし自主的な活動ができるよう配慮されている。」といった所見が多く見られました。また、「1 大阪市教育行政基本条例・大阪市教育振興基本計画に基づく観点」の⑩について、「命の尊さを知り、自己肯定感を高め他者への理解や思いやり規範意識、自主性や責任感などの人間性を育むよう配慮されている。」といった所見が多く見られました。

一方で、「特に工夫・配慮を要する点」として、「5 構成・配列に関する観点」の①について、「ノートを含め1年間で学習する量を超えている。」といった所見が見られました。また、「4 外的要素に関する観点」の①について、「文字が小さく、読みづらい部分がある。」といった所見が見られました。

最後に、日科です。

「特に優れている点」として多くの学校が挙げていた観点は、「3 学習指導要領に基づく観点」の⑥です。集団や社会とのかかわりに関することの育成に配慮されている。」といった所見が多く見られました。また、「2 教育基本法に基づく観点」の⑤について、「伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう配慮されている。」といった所見も見られました。「6 資料その他に関する観点」の①について、「1年間の総括としての振り返りが簡単にできる資料が最後にある」といった所見も見られました。

一方で、「特に工夫・配慮を要する点」として、「3 教育基本法に基づく観点」の③について、「男女の平等、社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を育成する点において配慮に欠けるように思う」といった所見が見られました。また、「4 外的要素に関する観点」の①について、「フォントが小さい」といった所見が見られました。

以上でございます。

(委員長)

ありがとうございました。

続けまして、専門調査会の調査結果についてお願いします。

(専門調査員)

それでは報告いたします。

私からは、学校調査会の結果も加味した専門調査会の調査結果について、各者の特色と、それぞれの優れている点や工夫・配慮を要する点について、発行者番号の順に報告します。

「特別の教科 道徳」の見本本は8種24点つまり、8つの発行者から3学年分、24冊になっております。

それではまず、東書から報告いたします。

巻末に自分用のホワイトボードが準備され、話し合い活動や、書くことで生徒自身が自分の意見を発表する活動への充実に向けての工夫がされています。また心情円も用意されており、話すことや書くことに支援や配慮を要する生徒にも、意見や気持ちの表現ができるように工夫もされています。さらに年度末の振り返りだけでなく、テーマごとの振り返りもできるようになっており、それらを通じて生徒自身による学びを深めるための工夫や配慮がされています。

次に「特に優れている点」についてです。

まず、失って初めてその大切さに気づかせるのではなく、生命を懸命に生きること、未来につなげることを深く考えることにより「生命の尊さ」について考えを巡らせる工夫がされています。

次に3年間を通じて、もくじのページから「いじめ」の文言を明記しています。また、各学年2編の教材を掲載し、今回の改定の意図を明確に示すことで、生徒のみでなく教員への意識づけの工夫がされています。

最後に3年間を通じて同じテーマで情報モラルに関する教材を掲載することで、一貫した思考で深める配慮と工夫がされています。

「特に配慮・工夫を要する点」につきましては、教科書に掲載されている教材が、全部で30編、付録として5編となっており、選択が難しくなっている点です。

続いて、学図です。

社会や、そこに生きる人間の多様性を前提とし、生徒一人ひとりが、道徳的な諸価値に触れる中で問題解決の力を育むことができるように工夫されています。また、話し合いを道徳の授業の核にとらえ、話し合いを通じて人間としての生き方について考えを深めることができるように、單元ごとにコラムやデータなどの資料が挙げられています。さらに長期休暇前には、その学期で学んだ事柄を振り返ることができる配慮がなされています。「いじめ」に関する資料も豊富であり、特に力を入れています。

次に「特に優れている点」についてです。

まず、国際社会や地球規模のレベルでの日本人の実績や取組を通して、将来国際人としてどうあるかを深く考える配慮がなされています。

次に「いじめ」に関しては、いじめを許さない観点と起こさない観点を、内容項目の「公平、公正、社会正義」と「友情、信頼」を中心に多面的にとらえています。

最後に各単元末に「心の扉」として、学習したことをさらに考え、深め、判断し、表現できるように配慮されています。

「特に配慮・工夫を要する点」としては、バリアフリーやノーマライゼーションに関する資料が少ない点です。

次に、教出です。

総評として、多くの教材が「導入の発問」・教材・「学びの道しるべ」の順の構成になっており、1時間の授業について、教師も生徒も見通しを持って取り組みやすくなっています。また、「人との関わりに関すること」についての教材や先人に学ぶ教材を多く取り入れており、生徒には読めば内容を理解できる文章となっているものが多いなど、道徳項目への理解を深めやすくなっています。さらに、発達段階に応じた構成となるように適切な教材を選定しており、授業計画が立てやすくなるように工夫されています。

次に「特に優れている点」についてです。

まず、各学年に大阪や関西に関する教材を取り入れ、地域とのつながりを考えさせるように配慮しています。

次に各学年に友達関係やいじめに関する教材を取り入れてしています。またイラストや漫画を使って生徒が人間関係について考えを深めやすいように工夫されています。

最後に教材の初めに本時で考えるべきことを発問として提示しており、導入に利用しやすくなっています。また、教材の最後に「学びの道しるべ」として中心となる発問や考えたい道徳的諸価値がまとめてあり、授業が進めやすくなっています。

「特に工夫や配慮を要する点」としては、さし絵の大きさ、大きな資料が多く、教材を読むときに配慮が必要です。

次に、光村です。

総評として、多くの教材をもとにして、教員と生徒が一緒になって道徳的価値について考え、読み進めていくことができるように工夫されています。また、生徒にどのような力をつけさせるための教材なのかを皆が把握した上で、授業に取り組むことができるよう工夫されています。さらに、多様な立場や考え方、多文化共生などについての取組も、基本的なところから考えていくことができ、今までこれらの課題について触れたり考えたりすることのなかった生徒にとっても生き方についてふりかえるきっかけとなる工夫がみられます。

次に「特に優れている点」についてです。

まず、情報教育や多様な生き方や立場、個別の現代的課題について、コラムに詳細な資料を掲載しているので分かりやすくなっています。

次に 教材の初めに道徳の内容項目が示されており、本時の目標が分かりやすくなっています。また終わりには「学びのテーマ」「考える観点」「見方を変えて」を掲載しているので、1時間の授業の流れがつかみやすくなっています。

最後にコラムや漫画などを活用し、よい人間関係のつくり方について学ぶことができる資料を多く掲載しています。

「特に工夫・配慮を要する点」については、情報モラルに関する教材が少ない点です。

次に、日文です。

総評としましては、1年ではいじめの防止や人間関係の形成の教材を、2年では職場体験学習の関連

の教材を、3年では将来の準備となる教材を、年間を通して中学校生活への希望、集団生活の向上、次学年への準備となるように文科省作成の教材や身近な教材から配列し、生徒が主体的に取り組みやすい配慮がされています。また、末尾に「考えてみよう」、「自分にプラスワン」を配置し、教師の授業展開を助けるよう工夫されています。さらに、教材と関連した内容を扱ったコラム「プラットフォーム」を使用することで、より深い学びにつながる配慮がなされています。

「特に優れている点」としては、まず、子どもが安心して成長できる安全な社会の実現に向けて、いじめと向き合う教材を多数配置しています。また、いじめを直接的、間接的に扱った教材に様々な指導内容を組み合わせて、集中的に学習できる工夫がなされています。

次に、教師が指導しやすいように冒頭には「主な登場人物」を、末尾には生徒の議論を助ける発問例となる「考えてみよう」や「自分にプラスワン」を配置する工夫がなされています。

最後に、別冊「道徳ノート」では、資料ごとに自分の生き方について考えを深められる「自分にプラスワン」の項目があり、生徒が自ら考えたことを記入することで学びを積み重ねることができるよう工夫されています。また、他者から学んだことを書きとめることで言語活動の充実が図られています。さらに、自己評価できる項目も工夫されています。

「特に工夫・配慮を要する点」としては、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられる教材が少ないため、未来志向を確立するための工夫が必要であるという点です。

次に、学研です。

総評として、生徒が主体的に問題意識を持ち、他者との対話を大切にしながら自分自身を見つめなおし、とらえなおすということに意識を持たせるよう工夫されています。また、広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方を深めるために、特定の価値観や概念を理解させるのではなく、生徒個々が考えを深めたのちに主題や内容項目を後で確認させることに重点が置かれています。さらに、生徒が主体的に課題を発見し解決していく力や能力を養うことに重点がおかれています。巻頭や巻末においても主体的な学びができる配慮がみられます。

次に「特に優れている点」についてです。

まず、生命の尊重や、ノーマライゼーションを扱う資料では、生徒が感動を覚え、心豊かに生きることを考える態度を育むようコラムなどを資料末に付けています。

次に「情報モラル」に関することは、各学年に複数の教材があり、SNSの利点や欠点、それに関係するいじめの問題など幅広く取り上げられています。

最後に教材を読む前に内容項目やテーマを先に提示せず、生徒自身が課題意識を持ちつつも、異なった考え方や意見を取り入れ、多様な観点から課題を意識する工夫をこらしています。

「特に工夫・配慮を要する点」としては、巻頭・巻末・補足の教材が豊富なため、本教材を深く読み込む際に配慮を要する点です。

次に、廣あかつきです。

総評としては、生徒においては自らが主体的・対話的で深い学びができるよう工夫されている。さらに、別冊については、教材ごとの振り返りとして使用するよりも「自分を見つめ・考え・伸ばす」ことができ、道徳的価値について解説している教科書とは独立した資料本として使用することで、さらなる深い学びにつながる。

「特に優れている点」としては、まず、いじめ防止と関わりの深い内容項目「公正・公平・社会正義」だけでなく「友情・信頼」「思いやり・感謝」「生命の尊さ」などの様々な道徳的価値の理解を深めることを通して、いじめの防止につながる教材を配置しております。

次に別冊「道徳ノート」には、グラフやアンケート結果・詩などの指導者の展開・構想に応じて活用できる資料が配置される工夫がされています。

最後にパラリンピックや難病の少年・車椅子の少女などの教材を取り上げ、インクルーシブ教育システムの充実・推進につなげることができます。

「特に工夫・配慮を要する点」としては、判型が大きく、分厚くて重いため、持ち運びには向かないという点です。

次に、日科です。

総評として、全学年教科書の巻頭に、生徒が年度を通じて「道徳科では何を考え学ぶのか」についてのフローチャートが記されており、明確な目標を持って学習ができるようになっています。また、巻末には生徒自身の心の成長と道徳の時間の振り返りシートが掲載されており、反復して考えを深めることができるようになっています。さらに、巻末のシートには1・2年生は次年度に向けて、3年生は将来に向けて、心をどのように成長させるのかを生徒自身に考えさせる部分もあり、道徳の授業時間だけでなく、日常生活に意識を継続させるための工夫がされています。

「次に特に優れている点」としては、まず「死」によって生命を考える教材が多く掲載される中、「生きること」をテーマにした生命の教材が掲載されています。また発達段階に応じた「生命」の教材が3年間を通じて掲載されています。

次に「いじめ」に関する教材では、直接的な内容で示すというよりは、多面的・多角的な思考を促すように、他の価値との関連から考えられるように工夫がされています。

最後に3年間を通じてSNSやインターネット等、生徒の発達段階に応じて幅を持たせた情報モラルに関する教材が掲載されています。

「特に工夫・配慮を要する点」としては、多様な価値観を考えさせる目的ではあるが、思考を深めるうえで配慮を要する点です。

以上、専門調査会からの報告といたします。

(委員長)

続きまして、咲くやこの花中学校 学校調査会報告をお願いします。

(事務局)

続いて、咲くやこの花中学校 学校調査結果について総評を中心に報告いたします。資料をご覧ください。

まず、東書です。

インクルーシブ教育の推進に配慮されており、命の尊さを強く感じさせる内容もあり、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることに配慮されています。いじめについての単元でも、命の尊さを強く感じさせる内容が示されています。

一方、グローバル化の観点の内容が少ないという一面があります。

次に、学図です。

バランスよく様々なテーマが掲載されています。また、文字のフォントが大きく、行間も広く見やすく、簡単な漢字までルビが打たれ、すべての生徒が読めるように配慮されています。各教材の末尾にある「心の扉」では、学んだ内容について考えを深めることができるように配慮されています。

一方、大阪の文化についての視点が取り入れにくいという一面があります。

次に、教出です。

各教材の最後に「学びの道しるべ」が設定されており、生徒が考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることに配慮されています。また、現代的な課題について取り扱われており、身近な社会的課題を自分との関係において考え、その解決に向けて取り組もうとする意欲や態度を育てられるよう配慮されています。

一方、情報モラルに関する内容に配慮を要するという一面があります。

次に、光村です。

インクルーシブ教育の推進や命の尊さ等、バランスよく掲載されており、多面的・多角的に考えられるよう配慮されています。また、教材ごとに、「つなげよう」が設定されており、生徒自らが考えを深め、主体的に学習に取り組めるよう配慮されています。

一方、少し文字が小さく、挿絵や写真の明るさが抑えられている点に課題があるという一面があります。

次に、日文です。

現代的な課題について、バランスよく取り扱われ、自分自身のこととして捉えながら、道徳的な判断力や心情をはぐくむよう配慮されています。また、別冊「道徳ノート」では、自らの考えを深め、これからの思いや課題について考えることができるよう配慮されています。

一方、「学習の進め方」のページに配慮を要するという一面があります。

次に、学研です。

様々なテーマがバランスよく掲載されており、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、考えを深め、道徳的な判断力、心情をはぐくむよう配慮されています。また、学年ごとに目次のページに、情報モラルに関する項目を分かりやすく記載しており、現代的な課題の取り扱いに配慮されています。

一方、教科書のサイズが大きく、生徒の取り扱いに配慮を要するという一面があります。

次に、廣あかつきです。

それぞれのテーマごとにバランスよく掲載されています。また、各学年の教科書名も、発達段階を考慮してつけられています。別冊「中学生の道徳ノート」には、学習内容を補充する多くの資料が掲載されており、考えを深め、道徳的な判断力をはぐくむよう配慮されています。

一方、別冊「中学生の道徳ノート」も含めると、やや重たいという一面があります。

最後に、日科です。

それぞれのテーマごとにバランスよく掲載されており、多面的・多角的に考えられる教材が取り扱われています。また、学年ごとに最後に、1年間の学びを振り返ることができるページがあり、これからの課題等を記録し発展させることができるようになっています。

一方、写真が少なく、明るさに課題があるという一面があります。

以上でございます。

(委員長)

続きまして、水都国際中学校 学校調査会報告をお願いします。

(事務局)

続いて、「水都国際中学校」学校調査結果について総評を中心に報告いたします。資料をご覧ください。

まず、東書です。

人としての心の持ち方などを考えさせることができるものになっており、自分の枠を少しずつ大きくしていき、周囲の環境や世界と繋がるような配慮が見られます。また、友情や信頼など、新しい教育でめざしていくソフトスキルが養成されていく内容となっています。

一方、創造性を培うような内容になっていないという一面があります。

次に、学図です。

内容も生徒にとって身近でわかりやすく、視覚的にも優しくできており、情報モラルやいじめ防止など目次の段階で目的としているものが明確なので、生徒が自分の気になる内容を探して読むことも可能であるとしています。また、情報モラルについて充実した内容となっています。

一方、全体的に良いつくりではありますが、生徒自ら振り返って、自分自身で目標を見つけることは容易ではないという一面があります。

次に、教出です。

世界で活躍する方や、病気を克服した方などの素晴らしいロールモデルを多用しており、生徒が自己肯定感を持てる工夫がなされています。また、物事を多角的に考えられるようになり、道徳的な判断力を高めるのに非常に役立つ内容になっています。

一方、生徒が自ら主体性を持って取り組む活動が少ない一面があります。

次に、光村です。

身近なテーマをよい切り口で説明したり、訴えかけており、一つひとつの題材の最後に生徒が心にわだかまりを残し、自分のこととしてとらえられるようなつくり方になっています。また、生徒が意見を交換しあうことを通して、意見集約や、新しい価値観を学ぶことができるよう配慮されています。

一方、情報モラルに関する題材が少なく、配慮を要するという一面があります。

次に、日文です。

内容も身近でわかりやすく、視覚的にも優しくできており、情報モラルやいじめ防止など目次の段階で目的としているものが明確なので、生徒が自分の気になる内容を探して読むこともできるようになっています。また、いじめの問題など生徒の考える領域を広げる内容となっています。

一方、別冊をうまく活用しなければ、主体的な学習に結びつきにくくなるという一面があります。

次に、学研です。

内容も身近でわかりやすく、視覚的にも優しくできており、情報モラルやいじめ防止など目次の段階で目的としているものが明確なので、生徒が自分の気になる内容を探して読むこともできるようになっています。また、物事を多角的に考えられるようになり、道徳的な判断力を高めるのに非常に役立つ内容になっています。

一方、生徒自身に考えさせるような問いかけをしているものが少なく、どちらかというとメッセージ性の強いものになっているという一面があります。

次に、廣あかつきです。

道徳心を養うために、生徒が興味を抱きやすい身近なことが題材に選ばれており、規範意識を育成できるように配慮されています。また、様々なとらえ方を通して、寛容な姿勢を育むように書かれています。さらに、身近な経験などを通して、規範意識を育成できるように配慮されています。

一方、別冊にも題材が掲載されており、授業ですべてを実施するには量が多いという一面もあります。

最後に、日科です。

全体的に多くの内容を掲載しており、特に資料は大変豊富で、十分活用できるものとなっております。また、全体的に集団や社会とのかかわりに重点が置かれており、集団の中での自分の立ち位置から自分を探っていくという構成になっています。

一方、それぞれの題材を深く考えさせるには内容が多すぎるため、生徒に道徳性を身に付けさせ、創造性を培うような指導をするには配慮を要するという一面があります。

以上でございます。

(委員長)

はい、ありがとうございました。

では、今、それぞれの報告につきまして、質疑や疑問点であるとか、そういうことがございましたら、委員より頂戴したいと思います。

(委員)

年間に各学年の道徳に何時間使われますか。

(事務局)

学習指導要領により、道徳は年間 35 時間と定められております。

(委員長)

校長先生方から実際に使っていくにあたり何かございませんか。

(事務局)

各調査会でもサイズのことが話題になったことは聞いております。またアンケートにもサイズについてのご意見をいただいております。

各調査会では、重さについての議論もありますし、大きいほうが見やすいという意見もあります。大きすぎるという意見もあります。アンケートで言いますと、生徒の荷物の重さのところで配慮を要するという意見が出ております。

いろいろな意見の中で、大きい方がいいとか悪いとかではありませんが、関心が高いということで報告させていただきます。

(専門調査員)

別冊について、8 者のうち日文とあかつきに別冊があります。日文の別冊は、それぞれの教材に沿った内容になっています。あかつきは、それぞれの資料に沿ってではなくて、指導者の扱う内容によって変わってきます。このように、2 者の別冊のありようも違っており、他の 6 者は別冊にはせず、教科書の中身に記載をする形になっております。

(委員)

別冊と書き込み型があるが、形態ではなく書くスペースの問題ではないでしょうか。別冊の方が書くスペースがやはり広いのですか。

(専門調査員)

中学校は長い資料が多いです。基本的に 1 時間で 1 つの資料をする形となっております。教材によっては読むだけで 10 分、15 分かかるものもあります。その中で、議論、相談、その中でものごとを記入していく時間というのは、長いほうがいいのか、それとも短いほうがいいのかは、それぞれ資料によると思うのですけれども、子どもたちに議論させたり、相談させたりしてその時間も工夫するのですが、その中でその思いをつづるという形をとっております。別冊であっても、1 時間で書く量が限られてきます。それぞれ各者の工夫はあるように思われます。

(委員)

サイズ、厚み、重さの話が出ていますが、調査の観点 4 の 3 項目でサイズが書かれていないが、調査結果にはサイズ、重さ、厚みが書かれています。後ろの机の上に置かれている教科書はサイズが統一されていますが、特別の教科 道徳、音楽、美術などは大きさが違ったりしています。そのあたりのところはどうなのでしょう。

(事務局)

音楽、美術などが、サイズが大きいということで、教科性などにより、視覚的に訴えるところを大事にしたいという発行者側の思いも予想されます。道徳も視覚的に訴えるものなどがございます。

(委員)

この教科書を実際に使うのが、年間 35 時間、1 週間で 1 時間使用することになり、子どもがそれを持ち運びすることを考えると、サイズが大きいとカバンに入らなかったり、重たかったりということになります。もちろん内容が一番ですが、保護者の立場からすると、子どもが持っていくにくく、重たいから嫌だという気持ちにならないようにすることも大きな要素をしめると思います。コンパクトにすると、文字が小さくなる、フォントが小さくなるという問題がでできます。非常に難しい選択ではあると思いますが、できるだけ教科書のサイズは統一してもらう方向がいいのではないかと思います。

(委員)

各者のコラムの扱いについて、光村、日文、学研などありますが、どのような扱いをされるのか、授業で扱われるのか、調査会でどのようなご判断をされたのか、ご意見を伺わせていただければと思います。

(専門調査員)

各者のコラムは、教材に沿っているものもあれば、まったく違っているものもあります。資料として追記する場合もあります。各者いろいろな形式で入っております。コラムが多すぎて内容が手薄と感ずるものもございます。ボリューム感が各者で違います。基本的には教材の部分がベースですので、そこを授業としてやっていきます。その付則として子どもたちが読んだり、書いたりしていくことになりますが、私達は教材という資料を根本として整理をしながら、コラムについては各者それぞれ強弱がありますが、補足として取り扱うことになります。

(専門調査員退席)

(委員)

1 つ質問ですが、専門調査会調査結果の 7 ページのあかつきについて、「1 大阪市教育行政基本条例」のところで、「いじめ防止と関わりの深い内容項目」ということで、最後には「いじめの防止につながる教材を配置している」と記載されていますが、それが特に優れている点で挙げられているが、一方では、工夫を要する点では、「いじめ防止についての教材がやや少ない」という、やや内容が反していることがあって、これはどういうことなのか説明いただきたい。

(事務局)

失礼いたします。

上の「特に優れている点」では「いじめ防止につながる内容の教材が盛り込まれている」としているにもかかわらず、「特に工夫・配慮を要する点」では「やや少ない」という形での掲載となっていることについて、わかりにくくなっているというご指摘だと思いますので、専門調査会の方に、確認をさせていた

だきまして、また、訂正等をさせていただきたいと思います。

(事務局)

昨年度、小学校の道徳の教科書採択の時の話ですが、若手がどんどん増えてきていることを考えたときに、別冊があるのはどうなのかと議論していただきました。やはり、よりよい授業をしていく時に、ベテランであれば、別冊がない方が自由な発想で様々な取組ができるのではないかとのご意見があったり、別冊があることによって、どうしても方向づけられた形の授業展開になってしまうのではないかと、昨年度はそのような話もありました。

今、中学校現場では、そのあたり、どのような授業展開が望ましいのでしょうか。

(委員)

授業で進めていくにあたって、なかなか教材研究の時間がとれない実態があります。

本校としては、3年間の様々な行事や生徒指導、教育課程等を踏まえて、道徳の時間だけで終わらず、学校生活全体や家庭生活など色々なところに影響していくことも踏まえ、並べ方にしても、学校に応じた教材の入れ替えの必要性も感じています。ある程度は、地域、学校の独自性も考慮して使いやすいものが良いと思います。それと本校においても、若手研修に取り組んでおり、学年で教員が次の道徳の時間にはこういう形で指導しようというふうに話し合いの時間が大変増えてきました。その結果、1つの指導案を全クラスで活用したり、基本的な指導案については、協議したモデル案のようなものをそれぞれが使うというやり方など、みんなで考えて進めている実態があります。だから、ある程度、基本ラインがあった方が、指導しやすいと思います。ましてや、それが初めて教科となり、文章による評価もある、ということであるならば、より基本ラインがあった方がいいかもしれません。しかし、あまり一律的なものだとその弊害も考えられるので、幅のあるものの方がいいのではないかと思います。以上です。

(委員長)

他にもご意見を頂戴したいところですが、時間に限りがございます。ここまでにしたいと思います。

もし、他にご意見がございましたら、記入用紙に記入をしていただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、次の水都国際中学校の「特別の教科 道徳」以外の調査について、ご報告いただきます。

(事務局)

第1回選定委員会の際は、水都国際中学校に関する資料を準備できず申し訳ありませんでした。

今回、お手元の封筒の中に水都国際中学校パンフレットおよび6月30日に実施した第2回学校説明会で説明いたしました資料を配付しています。ご確認ください。

今回行いました学校説明会では、中学校の部を2回開催しましたが、計約1300名の保護者、児童に参加していただきました。

それでは、お手元の資料に沿って、本校の教育課程についてご説明いたします。

資料9ページをご覧ください。

授業では英語の授業はもちろんのこと、数学や理科などの教科においても英語による授業、いわゆるイマージョン授業を行います。これにより週当たり14～15時間もの授業が英語で行われることとなります。

続いて、資料 10 ページをご覧ください。

教育課程についてご説明いたします。資料右下にある中学校 1 年生の 1 週間の時間割例をご覧ください。一般の公立中学校より週当たり 4 時間多い 33 時間授業となり、1 日 7 時間授業が 3 日、6 時間授業が 2 日となります。中学校ではコースに分かれませんが、課題探究型の授業を多く実施する予定です。

本校では、今申しあげたような教育的特徴を生かすため、特に数学、理科、英語の教科書においては他の公立中学校とは違った観点で学校調査を行いました。

続きまして、お手元の 1 枚ものの別紙資料をご覧ください。そちらは、水都国際中学校の教育的特徴を 6 つの観点にまとめたものです。それぞれに数・理・英、3 教科がめざす具体的な教育内容について示しております。

今回の選定委員会では、9 教科 15 種目の調査結果を提出いたしますが、今、申しあげた 3 教科の調査結果に絞って、担当よりご説明いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

私から数学、理科、英語の学校調査会の調査結果についてご報告いたします。

資料冊子をご覧ください。3 教科それぞれの発行者ごとに、総評を中心にご説明いたします。

数学についてでございます。

まず、東書（東京書籍株式会社）です。

「数学のまど」や章末問題にある「活用の問題」など、学力向上に配慮されたつくりになっているものの、オープンエンドな問題が少なく、生徒の創造力を用いた思考力を伸ばすものにはなっていないとの所見でございます。

次に、大日本（大日本図書株式会社）です。

巻末にある「Mathful」で世界の文化に触れるなど、グローバルな視点にも配慮が見られ、また学習効果を高める構成・配列になっているが、オープンエンドな問題が少なく、生徒の創造力を用いた思考力を伸ばすものにはなっていないとの所見でございます。

次に、学図（学校図書株式会社）です。

環境問題やまた日本伝統の和算を取り上げるなど、豊かな人間性を育成する構成となっているが、オープンエンドな問題が少なく、生徒の創造力を用いた思考力を伸ばすものにはなっていないとの所見でございます。

次に、教出（教育出版株式会社）です。

発表の仕方が詳しく説明されており、環境問題を取り上げ、また点字の仕組みなど様々な観点を取り上げているものの、ICT に関する記載が少ないとの所見でございます。

次に、啓林館（株式会社新興出版社啓林館）です。

随所に自己判断を育て、意見を交換し豊かな人間性と創造性を備えることができる構成であり、また、巻末付録「Math Navi ブック」が家庭でも探究的な学習ができるよう配慮されているとの所見でございます。

す。ただ、オープンエンドな問題が少ないとの所見もございます。

次に、数研（数研出版株式会社）です。

発展問題が総集編として用意されており、学力の向上に非常に効果的であり、高度な問題にチャレンジすることにより心理を求める態度を養えるとの所見でございます。文字が少し小さいとの所見がございます。

最後に、日文（日本文教出版株式会社）です。

「話し合おう」という項目があり、授業中に協働活動が促される仕組みになっているものの、オープンエンドな問題が少なく、生徒の創造力を用いた思考力を伸ばすものにはなっていないという所見でございます。

続いて、理科でございます。

まず、東書（東京書籍株式会社）です。

基礎的な内容から実社会までの活用を学ぶことができ、全体的にバランスよく内容がまとめられているものの、ICTの扱いは少なく、またグループワークや対話的な学習を行うには工夫が必要であるという所見でございます。

次に、大日本（大日本図書株式会社）です。

理解をさらに深められるような発展的な内容も多く、また視覚的に優れた構成になっているので、英語で授業を行うには効果的であるが、ICT機器に関する記載が少ないとの所見でございます。

次に、学図（学校図書株式会社）です。

「科学の窓」というコラムや、単元末のページで発展的な内容や、現在の学習が将来的にどのような分野につながるか明示しているものの、グループワークや対話的な学習を行うには工夫が必要であるという所見でございます。

次に、教出（教育出版株式会社）です。

コラムなどで理科の分野に限らない、幅広い知識を身に付けることができるものの、実験の結果や考察をまとめられておらず、内容的にも新しい観点が乏しいという所見でございます。

最後に、啓林館（株式会社新興出版社啓林館）です。

グループワークに適した教科書であり、別冊版により英語での授業のフォローアップを効果的に行うことができるが、ICTの活用に関しては、汎用性の高い例を挙げておくべきであるとの所見でございます。

最後に英語でございます。

まず、東書（東京書籍株式会社）です。

文法と語彙の習得、コミュニケーション活動による習得、自己表現による発信という3部構成によって4技能を総合的に育成できるものの、日本語での表記が多く、英語で授業を進めるには配慮を要する

との所見でございます。

次に、開隆堂（開隆堂出版株式会社）です。

基礎基本の着実な積みあげを大事にし、4技能の着実な習得をめざしているものの、グローバルな視点を養うには、さらなる多様な背景をもつ人物を取り扱う配慮を要するとの所見でございます。

次に、学図（学校図書株式会社）です。

国際理解の視点がよく押さえられており、グローバル化改革を視野に入れたコミュニケーション能力の育成を視野に入れたつくりになっており、また点字に実際に触れることができるなど、題材への理解を深められるつくりになっているとの所見でございます。

次に、三省堂（株式会社三省堂）です。

異文化や伝統芸能など、生徒の知的好奇心を引き出す多様な題材が取り上げられており活用的な英語力・議論する力・課題解決する力を育成する構成になっているものの、日本語での表記が多く、英語で授業を進めるには配慮を要するとの所見でございます。

次に、教出（教育出版株式会社）です。

生徒に身近な題材を扱い、全体的に道徳心、豊かな情操を持った人間形成と英語力の向上をめざしたバランスの取れた教材で、また問題解決学習に基づいた構成になっており、別冊教材により語句・文法事項の定着がはかれるとの所見でございます。

最後に、光村（光村図書出版株式会社）です。

TASK 活動として4技能がバランスよく学習できる内容構成になっており、また異文化や国際理解、日本の伝統文化等は幅広い題材を取り扱っているものの、全体的に英文量が少なく、英語で英語を理解する授業を進めるには工夫を要するとの所見でございます。

以上、水都国際中学校において特徴的な教科である「数学」「理科」「英語」の3教科に絞っての学校調査結果のご報告でございます。他の6教科15種目の学校調査会については、平成27年度に選定委員会において作成された答申を踏まえつつ、調査研究を行いました。調査結果については、同ファイル（配付ファイル）にございますので、お目通しいただき、第3回選定委員会においてご意見を頂きたく存じます。

私からは以上でございます。

（委員長）

ありがとうございます。

少し時間を取りまして、今の報告を踏まえて、全教科の教科書を見ていただきたいと思います。あわせて、それぞれの教科書展示会のアンケートをご覧ください。

ご了解を得れば、15分間取りたいと思います。よろしくお願いします。

(委員長)

それでは、水都国際中学校の採択に係る教科書を見ていただいたところで、先程のご報告のご質問をお聞きしたいと思います。

(委員)

数学と理科についてお聞きいたします。数学は、オープンエンドな問題についての言及、理科は ICT の活用、グループワークの活用についての言及がありましたが、それぞれ具体的にどのようなことがどのぐらいのレベルまで必要なのでしょうか。

(事務局)

水都国際では「探究的な学習」に重きを置いています。オープンエンドな問題とは答えが 1 つに定まっていない問題という意味です。基本的にはグループワークや話し合いをもとに授業を進めていき、教師が一方的に生徒に与えるのではなく、生徒間の話し合いの中で生きていく道や解答を見つけていくようなところに重点を置いています。ICT については、実際の授業でも ICT 機器を活用するので、こちらにも重点を置いています。

(委員)

必須ということですね。

(委員)

先程の ICT について、ICT が必須というのは教科書の中に載っていないとダメなのかというのが疑問に感じられます。数学について、総評を 2～3 行にまとめてもらっているが、啓林館は 6 行にまとめられています。不公平感が出てはいけいないので、同じぐらいにまとめたいいいのではないのでしょうか。

(事務局)

ご指摘ありがとうございます。ICT の記載については学校調査会を行う開設準備委員会に連携をとり、調整します。啓林館の総評についても、他者とボリューム感が同じになるように調整します。

(委員)

英語について、外的要素に「日本語の表記が多い」、「英語で授業を進めるのに差し支える」ように書いてありますが、中学生において教科書に日本語の表記があるのは差し支えるようには思えないので、日本語表記が多いというのはなくてもいいのではないのでしょうか。

(事務局)

日本語表記が多いという点については、英語の授業を英語で行い、英語の文法事項等英語で理解できるようにするというのをめざす観点からこのような表記になったと思いますが。表記内容については持ち帰り検討します。

(委員)

英語について、教科書の内容はもちろんのこと水都国際中学校は英語がメインになるということで、内容もちろんですが、デジタル面での充実も大事だと思います。実際にネイティブスピーカーによる授業もあるかと思いますが、いろいろなグローバルな場面を実際に聞いたり見たりするというところの教材が必要だと思います。その視点が必要ではないでしょうか。

(事務局)

持ち帰り、今指摘のあった視点も踏まえて検討します。

(委員)

表記がそろっていないのでそろえる方がよいと思います。「オープンエンド」について教科書を見て分かりましたが、分かりやすい表現のほうがよいと思います。ICTについても、配慮するかどうかは教え方等とは別問題の気がします。

(委員長)

他にございませんでしょうか。終了の時間となつてまいりました。お気づきの点があれば、用紙の方にご記入をお願いします。

本日はこれで終了と致します。それでは、事務局より事務連絡があります。お願いいたします。

(事務局)

事務連絡をさせていただきます。(以下、事務書類に関する説明)

(委員長)

本日は、長時間ありがとうございました。次回、今週金曜日、よろしくお願いいたします。

(事務局)

失礼いたします。

先程、ご質問がありました「総評欄の書き方」につきまして、昨年度の小学校の「特別の教科 道徳」におきまして、答申の中では、教科書発行者を順位付けすることはできませんが、発行者ごとの総評の中で、肯定的な文言と否定的な文言を入れていくことがありました。それを踏まえた答申の案を検討し、ご提出させていただいてもよろしいでしょうか。それをご覧いただきまして、ご協議いただきますようよろしくお願いいたします。

(委員長)

よろしくお願いいたします。本日は、長時間ありがとうございました。